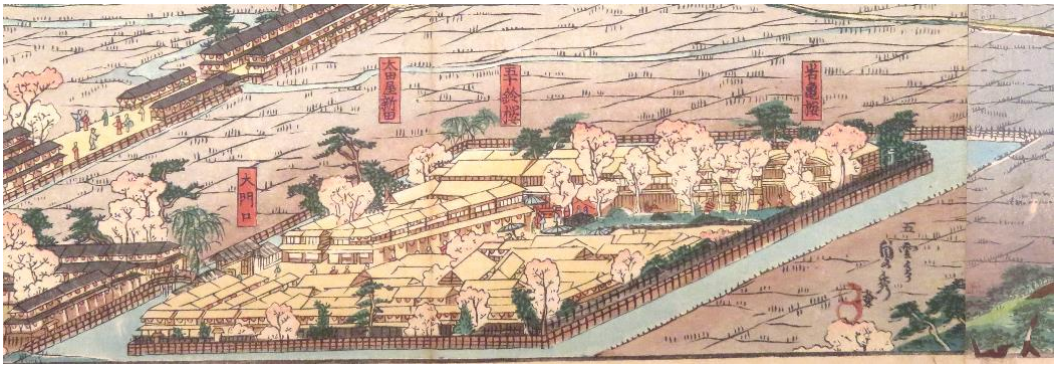
横浜市立大学学術情報センター

貴重書月替わり展覧会【オンライン】バックナンバー

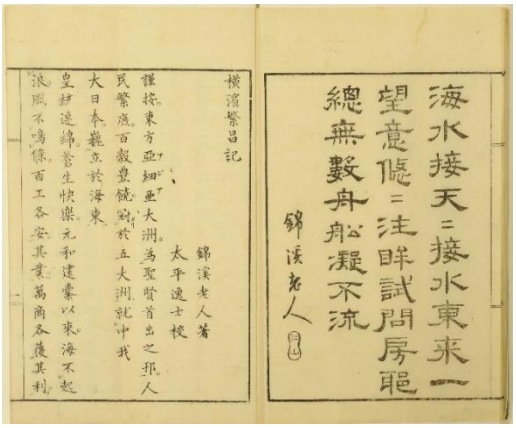
第 139 回（2023 年 4 月）

『横浜美屋希』（大錦 8 枚）



五雲亭貞秀（1762-1839）
小泉彫兼　（？－？）
安政 7(1860)年 2～3 月

横浜開港後に刊行された大錦で、概ね開港直後の視角を反映していると考えられる。港崎遊廓が新田の真ん中に隔絶され、堀で閉められている様を見ることができる。



『横浜繁昌記』（1 冊）

錦渓老人(1832-1870)：編
太平逸士(？－？)：校
江戸末期
23cm／72 丁

錦渓老人こと柳川春三が横浜開港頃のことを回想して書いた書物。9 話のうち「港崎」は最も長い丁面を占め、当時の港崎遊郭の繁栄ぶりをうかがい知ることができる。

原典及び作品紹介リーフレットは、学術情報センターにて公開、配布しています。